

登録コード	A4D41200	開講年度	2026				
授業科目	地域課題解決PBL				担当教員	齋藤 勝晴 他	
英文授業名	Regional issue resolution PBL					片山 茂・伊原 正喜・竹田 謙一・城田 徹央	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・3時限 火曜・4時限 火曜・5時限	対象学生	2
講義室	農学部 1 6 番講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標		授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】		
		2 0 2 5 Aカリ					
		【2025年度以降カリキュラム対象】5. 「地域協創特別コース」の履修者は、上記1～4に加え、主体的に行動し、持続可能な未来社会の創造に貢献できる能力を修得している。			地域課題の抽出・調査・分析・提案の一連のプロセスを実践し、多様な価値観を尊重しながら協働的に解決策を構想できる基礎的問題解決力を身につける。		
(2)授業で学べる「テーマ」		地域運営、環境共生、健康長寿、防災減災、キャリア					
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要		農学部の農場・演習林を出発点に、現場観察や教員・関係者への聞き取りを通して具体的な課題を抽出し、文献調査や分析により課題の構造を整理する。そこで得られた知見を近隣地域の課題へと接続し、自治体や地域主体へのインタビューやフィールドワークを重ねながら、地域社会に還元可能な解決策を提案する実践的PBLである。					
(5)授業計画		第1回（4/14） オリエンテーション 第2回（4/21） 学内PBL（1）講義、インタビュー 第3回（4/28） 学内PBL（2）文献調査、調査設計 第4回（5/12） 学内PBL（3）フィールド調査 第5回（5/19） 学内PBL（4）データ分析、まとめ 第6回（5/26） 学内PBL（5）内部発表会 第7回（6/2） 地域PBL（1）テーマ設計 第8 12回（6/9, 16, 23, 30, 7/7） 地域PBL（2）（6）インタビュー フィールド調査 データ分析・文献調査（1）（3） 第13回（7/14） 地域PBL（7）プレゼンテーション作成 第14回（7/21） 地域PBL（8）報告会準備 第15回（7/28） 地域PBL（9）発表会、授業アンケート 第16回（8/4） まとめ					
(6)自主学習の指針		グループでのデータ分析や文献調査、およびプレゼンテーションに向けた事前準備は、授業中だけでは不十分な場合も多いので、各グループで日程調整をしたうえで、授業時間外学習を行ってください。					
(7)成績評価の基準		秀：授業の達成目標水準から見て卓越している。（90点以上） 優：授業の達成目標水準よりかなり上にある。（80～89点） 良：授業の達成目標水準よりやや上にある。（70～79点） 可：授業の達成目標水準にある。（60～69点） 不可： 授業の達成目標水準にない。（59点以下）					
(8)事前事後学習の内容		その都度、事前、事後の学習内容について連絡します。					
(9)テストやレポートの予定		毎回の授業でレポート課題を課します。また、第15回の発表会で報告した内容を期末レポートとしてまとめて提出してもらいます。					
(10)成績評価の方法		外部講師の講演に対する質疑応答、グループで取り組むPBLへの取り組み、					
(11)質問、相談への対応および連絡先		主担当：齋藤勝晴 C棟3階C311室 saitok@shinshu-u.ac.jp コーディネーター：岩崎史 事務棟1階学務G iwasaki-f@shinshu-u.ac.jp					
(12)履修上の注意		グループワークによる演習形式の授業です。やむを得ず、授業を欠席する場合には担当教員と同じグループの構成員に連絡してください。					
【教科書】		指定しません。					
【参考書】		佐藤望（編集）・湯川武・横山千晶・近藤明彦「アカデミック・スキルズ（第4版）：AI時代の知的技法入門」慶應義塾大学出版会、2026年 大出敦・直江健介「アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門:学生のためのプレゼン上達術」慶應義塾大学出版会、2020年 新井和広・坂倉杏介「グループ学習入門:学びあう場づくりの技法」慶應義塾大学出版会、2013年 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美「質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学」有斐閣ストゥディア、2016年					